

## 令和5年産桃精算報告会



12月8日、本店で開いた令和5年産桃精算報告会で、販売額が4年連続で1億円を超えたことなどを報告しました。

同年産の販売額は1億4560万円（前年対比115.6%）となり、入庫数量は3万5804箱（前年対比91.3%）。初期成育は早く、病害果は近年では最も少ない年でしたが、高温により着色が遅れ、軟果も散見されました。

りんご野菜課の販売担当者は「温暖化の影響から今後も厳しい状況が予想されるが、市場評価も良く、輸出対応の果実としても認知されているので、生産者の皆様に喜んで頂けるよう努めたい」と話しました。



販売額などを確認する生産者



防除について確認する生産者

## 令和6年用りんご病害虫防除暦説明会



みなみ地区りんご共同防除連絡協議会（山内誠会長）は12月15日、本店で令和6年用りんご病害虫防除暦の説明会を開きました。同協議会の会員約100人が出席し、令和6年用の散布農薬などを確認しました。

平賀グリーンセンターの平田敏幸営農指導係長が、令和5年の気象状況や病害虫の発生状況、令和6年用病害虫防除暦の記載内容を説明。「新規薬剤などをしっかり確認し、適期防除を徹底してほしい」と呼び掛けました。

## 令和5年産大豆成績検討会



尾上大豆作業受託組合は12月18日、尾上支店で令和5年産大豆成績検討会を開き、同年産の大豆の生育や収量、多収性生産の試験成績を確認しました。

尾上グリーンセンターの山口博之営農指導係長が、令和5年産大豆の生育や収量について説明。開花時期が高温多照であったことや作付面積140㍓で昨年より、9㍓増えたことで、荷受重量が過去最多の41万4000㍓（前年対比226%）となり、10㍓当たり平均収量は270㍓であったことを報告しました。また、令和6年産の栽培に向けて、収量、品質向上のための排水対策や雑草対策なども説明しました。



大豆の試験成績を確認する生産者